

名等可申出依于別冊相添此段相達候事
但二三男厄介等二于獨身ノ者卜雖厄希
望ノ者ハ可願出事

明治七年十二月日 陸軍中將兼開拓長官黒田清隆

甲亥四拾九号

北海道在勤御用係ノ輩月俸

割増支給ノ義伺

當使判任以下官負北海道在勤ノ輩別
紙ノ通伺濟ノ上月俸割増御手當被下
候處御用掛御雇等同地在勤ノ者モ右
ニ準シ壬申十一月以降七十圓以下月
俸支給ノ分夫々割増御手當相渡來候
條向後モ同新取計候様仕度右ハ最前
伺書ニ判任以下卜ノ有之御用掛御

十二月

八号

昇石吏

雇等判然記載無之ニヨリ今回大藏省
ヨリ照會ノ趣モ有之候ニ付此段奉伺
候也

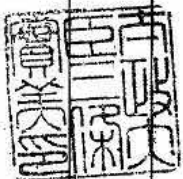
明治七年十二月九日

開拓長官黒田清隆

太政大臣三條實美殿

伺之通

明治七年十二月廿八日



十二月廿八日

一 判任以下在勤場所ノ志進ニ隨テ官派割増ノ法
下等ノハ今般月給更ノ以テ天從前ノ通月給
比多量ノ九斗ノ月給中健中上ニ至ル
以下各條ノ以テ在勤場所ノ官派割増ノ法
九斗奉

但此等ノ在勤場所ノ志進ニ隨テ

一 判任以下在勤場所ノ志進ニ隨テ官派割増ノ法
下等ノハ今般月給更ノ以テ天從前ノ通月給
比多量ノ九斗ノ月給中健中上ニ至ル
以下各條ノ以テ在勤場所ノ官派割増ノ法
九斗奉

者法更施限より其通彼方面通し後志曉旅と為す
湾より其元之振る及に之を為す如き自為彼法と為
礼儀儀に別務より之を成し別任に下月迄と増進
仕後程を面し信実を在備別任未

朝下より其信實を施限より其法と為す自為也

三年
七月十八日

心院

以年

黒田宗格次官

何れ其原給治の如き其及

所所之を信実を施限より其法と為す自為也

其分増し別任に下賜し其年

臣清隆 謹テ按ヌルニ 朝廷海外諸國ノ成例ニ
仿ヒ其國人ヲシテ我邦内一般ニ旅行スルヲ得
セシムルノ規則案ヲ下シ院省使ノ長次官ヲシテ
其可否ヲ議セシム 臣伏シテ謂ヒタク此事關係
スル所至大至重決テ今日ニ行フ可カラヌ夫レ
外國在留ノ者嘗テ約定スル所ノ期程ニ非ルヨ
リハ擅ニ旅行スルヲ得ス是其然ラサルヲ得サ
ル所以ノ者アリ何ントナレハ癸丑以來各國人
ノ來往スルヤ邦人皆之ヲ警視シ或ハ之ヲ刺殺